

「フェアトレード」

早いもので、もう1月下旬になった。この時期になると、デパートやスーパーマーケットでは、バレンタインデーを見越したチョコレート商戦が始まる。以前は「義理チョコ」なんて言葉がよく使われていたが、最近では自分に対する「ご褒美チョコ」が流行っているらしい。

チョコレートというと、100円でお釣りが来るものから2000円以上するものまで、チョコレートの値段はかなり差がある。ネット記事で調べてみると、何を大切にしてチョコレートを作っているかの違いだそう。味覚、食感、見た目、価格など様々な要素で判断されるチョコレート。原材料、とくに口どけの良さを求めるならカカオバターが使われているかが大きいという。ただ味覚は個人差があるから、おいしさは値段に比例するとも限らない。

先日、チョコレート商戦を取り上げたニュースの中で、「フェアトレード」という言葉が出てきた。ご存じだろうか。訳すと「公平貿易」という。発展途上国でつくられた農作物や製品を適正な価格で継続的に取引することより、生産者の生活を支える貿易のあり方。ときに国際協力・資金援助は、援助する側の都合により左右され、継続性に欠ける問題点がある。それに対して、フェアトレードは、私たち消費者が日常生活でコーヒーやバナナ、チョコレートなど、商品の購入から生産者の生活を支えられる取り組みで、貧困課題の解決策の一つとして、世界中で広がりつつある。生産者の保護というばかりではなく、安全な労働環境や児童労働の禁止といった社会的にも、農薬の使用削減など環境的にも役立っているようだ。

SDGsの10番目の目標「人や国の不平等をなくそう」というのがある。ユニセフの資料によると、富と所得の格差が多く、国がかつてないほど拡大しているという。5年前には世界人口のもっとも豊かな1%の人が持つ資産が世界全体の資産の約33%に相当し、もっとも貧しい25%の人が持つ資産の割合は10%にすぎない。フェアトレードにより生産者が適正で安定した収入を得ることができれば、貧困の解消に役立つかもしれない。

1月23日 校長 鈴木 幸雄

◆問題 下のように、1から順に同じ数字を4つずつ書き、3つずつのグループに分ける。1 1 1、1 2 2、2 2 3、3 3 3、4 4 4、4…
たとえば3番目のグループは「2 2 3」です。30番目のグループの3つの数字の和はいくつですか。